

渡辺信明展

watanabe nobuaki new paintings

2022年6月20日(月)ー7月2日(土)

1962年、滋賀県生まれ。

1988年、京都市立芸術大学大学院美術研究科修了

1987年、ギャラリー16（京都）にて初個展を開催。以降、ギャラリーすずき（京都）、ギャラリー白（大阪）、複眼ギャラリー（大阪）、ギャルリ・プス（東京）、テンバ・Aギャラリー（大阪）、2kwギャラリー（滋賀）等で個展を開催。主なグループ展に1991年、現代美術'91-素材はいろいろ-（徳島県立近代美術館・徳島）、次代を担う作家展（京都府立文化芸術会館・京都）にて優秀賞を受賞、1992年、筆跡の誘惑-モネ、栖鳳から現代まで-（京都市美術館・京都）。1994年、アート・ナウ'94-啓示と持続-（兵庫県立近代美術館・兵庫）。1996年、VOCA展'96現代美術の展望（上野の森美術館・東京）。1999年、風の芸術展（枕崎市文化資料センター・鹿児島）にて準大賞を受賞。

2001年、京展（京都市美術館・京都）にて京展賞、京都市美術館賞（コレクション賞）を受賞。2003年、吉原治良賞展（大阪府立現代美術センター・大阪）にて優秀賞を受賞。2006年、京都市芸術新人賞受賞。2007年、“ダイアログ”コレクション活用術 vol.2（滋賀県立近代美術館）。2008年、京都美術ビエンナーレ（京都府立文化博物館・京都）。2015年、Enk de kramer と渡辺信明（Oギャラリー eyes・大阪）。2021年、ペインタリネス（ギャラリー白・大阪）等多数出品。—————

“wind cloth” galleryhaku osaka 2022

風

布

ふうぷ

ギャラリー白

生活と隣り合わせの風景は、いつも絵と向き合う私の覚悟を揺さぶってくる。だから私はブレる気持ちを振りほどき、グリップを高め、又メツた筆致で描き出す。その没頭の行き先に、画面と身体の世界は少しづつ曖昧となり、やがてその両者のはざまに微かな風が吹きはじめると。

「風布」と書いて「ふうぷ」と読む。埼玉県大里郡寄居町に実在する地名である。絵の題名に造語で「風布（かざぬの）」と考えているときに、この土地名と出逢った。その耳慣れない、どこかユーモラスな言葉の響きにも惹かれて作品タイトルとした。いつかこの場所を訪ねてみたいと思っている。